三五九八番

ぬばたまの　夜は明けぬらし　玉の浦に　あさりする鶴　鳴き渡るなり

三五九九番

月読の　光を清み　神島の　磯間の浦ゆ　舟出す我は

三六〇〇番

離磯に　立てるむろの木　うたがたも　久しき時を　過ぎにけるかも

三六〇一番

しましくも　ひとりありうる　ものにあれや　島のむろの木　離れてあるらむ